

列状間伐施業の推進 地域関係者・民有林との連携

地域課題の解決に向けた取組

十勝西部森林管理署

東大雪支署

十勝地域における多くの人工林が主伐期を迎え、人工林資源の循環利用を進めていくことが重要となってきました。

しかし、林業労働者の減少・高齢化等による労働力の不足、生産コストが高く採算性が低いなどの課題も見受けられます。

こうした中、十勝管内の森林管理(支)署と十勝総合振興局では、平成25年度より「十勝地域林政連絡会議」を開催し、



【十勝地域林政連絡会議】

地域の課題の解決に向けて取組を行っています。その中から、「列状間伐」の普及についての取組を紹介します。

国有林では、初回及び二回目の間伐までは原則列状で実施しています。一方、十勝管内の民有林では道有林が二回目以降の間伐を列状で行うことを推進しています。

十勝管内関係者からの聞き取りでは、地域によって一〜二回目とも実施しているところ、一回目でもほとんど実施していないところがあるなど温度差がありました。

また、列状間伐を実施しているところ、その導入率や伐採率、高性能林業機械の使用率にはばらつきがあるなど色んな課題が見えてきました。

そこで、国有林、道有林をフィールドにし各種

現地検討会等を開催しました。

意見交換では、「予定よりも少ない日数で作業が終了した」、「懸念していた風倒被害が見られなかった」等、列状間伐が低コストに資するものであることが確認できた一方、



【道有林での現地検討会】

「列状間伐では、将来残すべき立木まで伐採されてしまい、伐採すべき立木が残ってしまう」、「長期的には風害の不安がつかまとう」等の意見も出されました。

一概に列状間伐がベストとはならないのでは？と思う反面、他に列状間伐のメリットを示すことができないものかと思案していたところ、簡易に作業工程・生産コストを算出し、機械ごとの作業工程が把握できる工程管理システムが他署で作成され使用していることから、これらの活用を考えました。

今年度はこのシステムを使用して、列状間伐における工程、コストの見える化に取り組みこととしました。

現在、このシステムに必要な稼働時間等の因子を収集するために、支署管内の請負事業体に協力を頂いているところです。

しかしながら、昨年十勝地域を襲った台風等の影響により事業地の取り止め、作業条件の悪化など

例年とは違った悪条件が重なり、今のところ思うようにデータが集まっています。

平成29年度以降についても、継続してデータの蓄積を図るべく準備を進めているところです。

今後とも、民有林関係者の方々との連携を図り地域の課題を的確に捉え、課題解決に向けて継続的に取り組むことにより、「資源の循環利用による林業の成長産業化」の一助になることができると考えているところです。



【列状間伐実施後】